

京都大学とペルーとの天文学・太陽物理学研究を通じた学術交流を進めるための 財源（旅費・滞在費）支援のお願い

京都大学大学院理学研究科・附属天文台

1957年、当時京都大学の大学院生であった石塚睦先生は、コロナグラフ建設のために単身ペルーに渡りました。ペルー地球物理研究所のワンカイヨ観測所を本拠地として調査観測を開始し、財政面を始めとする様々な問題の下、コロナグラフの建設は困難を極めました。22年の歳月をかけて1979年にコスモス太陽コロナ観測所を完成させ、ついに1988年に定常観測を開始するに至りました。しかし、同年10月、この観測所はペルー反政府テロ組織に無残にも爆破され、ご本人も命を狙われる事態に陥りました。しかし、そのような過酷な環境下でも、石塚先生はペルー国内で天文・太陽の観測・教育活動に尽力し続け、その努力はようやく近年になり、イカ大学太陽ステーションや石塚睦記念プラネタリウム、ワンカイヨ宇宙電波観測所などの設立と言う形で結実するに至り、2009年には日本国政府より、瑞宝小綬章を受章することにつながった、と聞いています。

このような石塚先生の偉大な功績は、現在、京都大学理学研究科附属天文台が宇宙天気予報研究推進のために2006年に立ち上げた国際協同観測事業「CHAINプロジェクト」における海外第一号太陽望遠鏡を、2010年3月に、そのペルー・イカ大学太陽ステーションに設置することへとつながり、再び京都大学とペルーとの天文学・太陽物理学を通じた学術交流が本格的に花開こうとしています。

CHAINプロジェクトとは、Continuous H-Alpha Imaging Networkの略称です。現在、地球周辺の宇宙環境や超高層大気は、太陽の表面の爆発（フレア）を源にもつ宇宙嵐によって大きな影響を受け、人工衛星の故障や通信障害などの被害が発生しています。宇宙飛行士や航空機乗員の放射線被ばくの恐れすらあります。このような宇宙嵐の予報（宇宙天気予報）の実現が、全世界的に緊急の課題となっています。CHAINプロジェクトは宇宙天気予報の基礎となる太陽フレアやプラズマ噴出を観測する小型のフレア監視望遠鏡を全世界に配置し、太陽を24時間連続的に観測し続けるための国際観測ネットワークを構築しようという事業です。その第1号機をペルー・イカ大学に設置できたわけですが、この事業を今後進めていくためには、ペルー現地の研究者養成が不可欠です。特に若手研究者や大学院生・大学生への教育や研究指導が必要です。そのため、ペルーの大学院生・大学生の日本への留学、あるいは、指導的立場にある日本人研究者のペルーへの渡航が必須ですが、旅費・滞在費の財源がありません。

本事業へのご理解と旅費・滞在費へのご支援を、ぜひ、よろしくお願い申し上げます。